

上野義和・森山智浩・福森雅史・李潤玉 著

## 『英語教師のための効果的語彙指導法 ：認知言語学的アプローチ』

(英宝社)

本書は本学図書館長の上野義和教授(英語教育学博士)が編者を務め、同氏とその教えを受けた方々が著した、千ページをこえる英語教師のための英語語彙の習得指導法の大著です。

本書は、従来からの「英語表記=日本語訳」を疑問視し、視覚動物である人間の目のレンズから網膜に映し出された外界物体・事象の情報が脳に伝えられ、言語化される脳活動のメカニズムを英語語彙指導に有効であるという観点から書かれています。

たとえば「I see」はどのように「判りました」なのかを一例に、多くの「何故か?」に対する理由が心理学、医学などの隣接学問をとり入れながら、グラフやイラストを用いて解りやすく説明されているので、教師だけでなく広く英語を勉強している人たちに大いに役立つと思われる。

375.895-Eigo (N.K.)

エマニュエル・ヴィニユロン 著  
管啓次郎 訳

## 『フランス領ポリネシア』

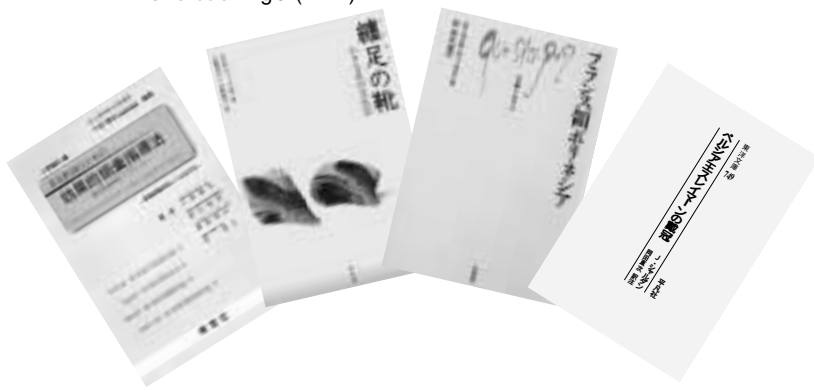
(白水社)

かつて画家ゴーガンに魅了した南太平洋に浮かぶ楽園の島、フランス領ポリネシアは118の島々よりなり、地球上で最も最近になって人間が住み着いた土地のうちの一つに数えられています。

著者は、モンペリエ大学の地理学者、開発学者で特に公衆衛生関係の専門家として知られています。本書は、フランス植民地帝国の最期の一角を占めるこの地域についての特殊な風土や歴史を紹介するとともに、核実験施設によって著しい経済成長をとげたその長年に渡る核実験が住民に与えた放射能の影響が、近年やっと調査委員会によって報告されたことなどについて述べた理学の側からみた概説書です。

本書のオリジナル: *La Polynésie française*  
(Collection Que sais-je? No 3041) Presses  
Universitaires de France, Paris, 1995

297.5-Vig (H.T.)



ドロシー・コウ 著 小野和子・小野啓子 訳

## 『纏足の靴:小さな足の文化史』

(平凡社)

残酷な風習、男性からの抑圧の象徴というイメージの強い「纏足」。本書では、そのような纏足のイメージを女性文化の視点から捉え直すことを目的としています。

もちろん、多大な身体的苦痛を伴う風習であることや、セクシュアリティとの関連を否定しているわけではありません。しかし丁寧に細やかな細工の施された美しい纏足靴からは、苦痛や抑圧というよりはむしろ、靴に込められた彼女たちの願い、誇りといった思いが強く伝わってきます。単に美しいばかりではない、三寸の靴に隠された深い意味を感じてみてはいかがでしょうか。

383.7-Ko (H.T.)

J.シャルダン 著 岡田直次 訳注

## 『ペルシア王スレイマーンの戴冠』

(平凡社)

若きフランス人宝石商、ジャン・シャルダン(1643-1713)が、ペルシア王に宝石をお買い上げいただくとする営業マンとして、あるいはまた東方への好奇心を胸に抱いた青年として、「世界の半分」とうたわれたサファヴィー朝の首都イスファハーンへと旅立ったのは1665年頃のこと。このフランス青年の目に当時のイランはどう映ったのでしょうか。本書は彼が綴った旅行記の中の部分訳で、王位継承にまつわる宮廷史家の記録に自らのコメントを加えた内容になっています。

226.3-Cha (N.T.)